

キューバ⑤

地方都市にもアートの学校

白道のカミミノー便り

キューバの場合、シンポジウムの日程は大盛りで、1週間過ぎる頃には海外からの参加者は皆へトへトになっている。

午前中はアートスクールで毎日3、4人の海外組のプレゼンテーションがあり、午後は工房で作陶である。ホテルでの夕食の後はサプライズが待っている。画廊でオープンングパーティーに参加したり、劇場でバレエを見たり、コンサートを聴いたり、連夜のように何かがある。

夜の催しの後、キューバ音楽を演奏するバーへ飲みに行くのも欠かせない。帰りは12時前になる。1日だけがプラージャ（ビーチ）にも行く。12月にカリビアン

ブルーの海でプカプカ浮かんでいる快感！

日本には芸術大学はあるが、もっと若い人がアートを学ぶ学校はあまり聞かない。リトアニアでは、小学生から行ける有名なアートスクールが首都のビリニウスにある。

カマゲエイのアートスクールは、高校生くらいの生徒たちがクラシックバレエ、音楽、絵画、彫刻（陶芸を含む）、グラフィックデザインなどを学んでいる。クラシックバレエの生徒たちは廊下を歩く姿も美しい。

この学校もシンポジウムの主催団体のひとつで、私たちのプレゼンテーションには生徒たちも来るし、学校から歩いて10分の陶芸工房にも生徒や先生が頻繁に訪れる。

キューバは貧しい国だが、地方都市ですらアートを学ぶ素晴らしい学校がある。松江も、不昧公の頃には国内有数の文化都市だったと聞く。山陰の京都と呼ばれるような芸術の薫り高い地方都市になればと願っている。



パフォーマンスをするアートスクールの生徒たち＝ベアトリーチェさん撮影